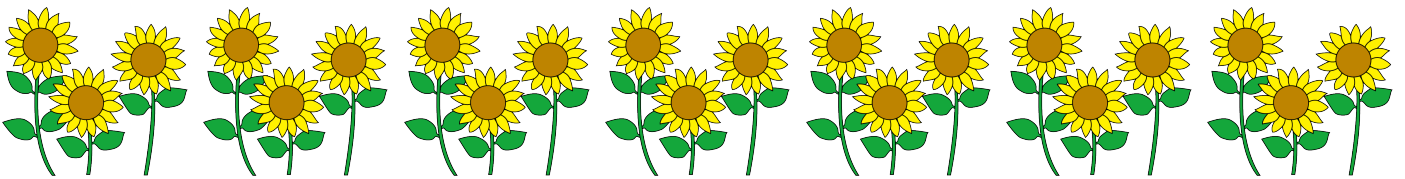


生活の中の
仏教語

寿(いのち)限りあり

ほっと通信編集委員 中村瑞貴



世界で人口の一番多い国は？ 14億3000万人弱のインドです。中国を抜いてトップになりました。では日本の人口状況はどうでしょう。令和4年の出生者数は80万人を割り込み、統計史上一番少ない数となりました。一方で亡くなられた方の数は158万人を超え、戦後最多となっています。死者数の多さはここ数年のコロナの影響ともいわれていますが、赤ちゃんの生まれる数に対して78万人ほど上回っています。言い換えれば、日本ではそれだけの人口が減っていることとなります。政府が少子化対策に力を入れています、その効果はいかかなもののでしょうか。

一時期、子供や孫一人にかかる金額の多さが話題になりました。可愛すぎて仕方がない表れかもしれません。また、親の思いが強く反映したキラキラネームも流行しました。難読名前と言われるキラキラネームに関しては、本年戸籍法が改正されて一定基準が設けられることになったようです。

「この子の名前は先代の住職さんにつけてもらったのっしや」とお檀家さんに言われることが時々あります。以前、お寺の住職がお檀家さんや地域の方の子供の名前の命名を頼まれることは普通でした。落語の『寿限無』でも子供の名前を旦那寺(菩提寺)の住職につけてもらうという設定が多くなされています。子供ができるのはめでたいことだから、長生きできるような名前を付けようと『寿限無寿限無、五劫の摺り切れ・・・長久命の長助』という長い名前になったということは一般の方にも馴染みがあると思います。「寿限無」は無量寿経というお経から取ったといいますが、とても長い時間を表す「五劫」という仏教語も使われています。

さて、現実はいかがでしょうか。寿限無（いのちかぎりなし）とは言えないのが私たちの生命です。医学が進歩しても、良いお薬やワクチンが出来ているとはいえ、私たちの生命には限りがあります。限りある『生命（いのち）』をどのように生き、活かしていくか。私たち一人一人に与えられた使命はとてつもなく大きいものと言えましょう。それゆえに「生」の対極にある「死」というものをしっかりと捉えて生活しなければならないということです。

『時は今 ところ足元 そのことに 打ち込むいのち 永遠の御いのち』

<椎尾弁匡>

合掌

(仙台市若林区 浄土宗 愚鈍院住職、浄土宗大本山増上寺布教師)

(928字)
